

平成 2 2 年 3 月 4 日

北九州市 環境局 環境経済部 環境産業政策室

担当課長：柴田俊雄、担当係長：肥塚秀夫

T E L : 5 8 2 - 2 6 3 0

**北九州 P C B 廃棄物処理施設第 1 期施設粗解体室での洗浄液の漏洩に係る
原因と再発防止策について（最終報）**

日本環境安全事業株式会社北九州事業所（以下「J E S C O」という。）（若松区響町）において、本年 2 月 1 9 日に発生した、北九州 P C B 廃棄物処理施設第 1 期施設粗解体室での洗浄液の漏洩について、J E S C O から本市に対し、その原因と再発防止策について報告があり、本市として、その内容が適切であることを確認しましたので、お知らせします。

（別添資料）

日本環境安全事業株式会社ホームページ発表資料

（事業に関する問い合わせ先）

日本環境安全事業株式会社北九州事業所

所長：千葉高生、総務課長：田野洋

電話：0 9 3 - 7 5 2 - 1 1 1 3

News Release

平成 22 年 3 月 4 日

北九州 P C B 廃棄物処理施設 1 期施設粗解体室内での 洗浄液の漏洩の原因と再発防止策について

平成 22 年 2 月 19 日に発生しました 1 期施設粗解体室内の大型トランス洗浄ステーションからの洗浄液の漏洩につきまして、原因の確認と再発防止策を講じ、北九州市より確認をいただきましたので、ご報告いたします。

なお、施設の安全運転につきましては、全力を尽くして参りますので引き続きご理解とご協力をお願い申し上げます。

1．発生状況

2 月 19 日午前 7 時 11 分頃、粗解体室内の作業環境用オンラインモニタリングの計測値の異常を知らせる発報があったため、直ちに現場を確認したところ、大型トランス洗浄ステーションの下にあるセイフティネットのオイルパン(4,090 mm×3,190 mm)内に洗浄液(分析の結果、P C B 濃度 2,340ppm) 約 150 リットルが漏洩していたのを発見。

直ちに循環洗浄を停止し、漏洩した洗浄液を回収しました。

なお、この漏洩による施設外への P C B 等の流出、漏洩はありませんでした。また、作業員への影響もありませんでした。

2．発生原因

大型トランス洗浄ステーションで、大型トランスから P C B 油を抜油し、浸漬洗浄を行った後に、洗浄液(950 リットル)を大型トランス内に入れ、5 時 33 分より自動循環洗浄を行っていました。この循環洗浄において洗浄液を循環させるために使用していたテフロン製のフレキシブルホース(約 60 c m)の 1 箇所に亀裂(2 mm 程度)が生じ、漏洩したものです。

3．再発防止策

テフロン製の洗浄用フレキシブルホースを金属(ステンレス)製に交換した。

粗解体室内にある大型トランス洗浄ステーション以外で使用されている洗浄用フレキシブルホースについて一斉点検を行い、全て金属(ステンレス)製であり、また、異常がないことを確認した。

洗浄作業開始前及び循環洗浄中の点検項目の見直しと作業者への再教育を実施した。

別添資料

「現場概念図及び現場写真」

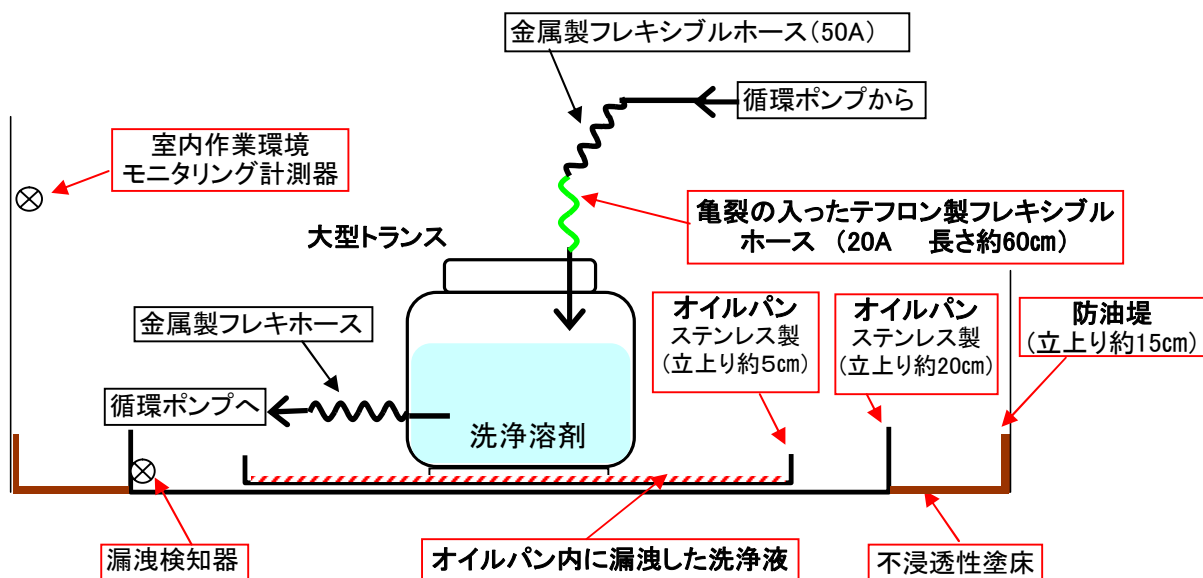
< 連絡先 >

日本環境安全事業株式会社北九州事業所

所長 千葉 高生 (TEL 093-752-1113)

総務課長 田野 洋 (同上)

現場概念図



現場写真

